

7空港全て前年超え、上海・台北2ケタ増

■アジア主要空港＜上期＞

本紙集計によるアジア主要7空港の2026年上期（1～6月）の貨物取扱量は、いずれも前年同期を上回った。特に上海・浦東と台北・桃園は2ケタ増と伸びが目立った。香港ではトランジット貨物が2ケタ増となった。台北・桃園では輸出・輸入ともに2ケタ増、

成田でも輸出（積み込み量）が2ケタ増となった。シンガポール・チャンギではAI関連の半導体や電子機器の輸送需要が貨物取扱量を押し上げた。

空港別にみると、香港が前年同期比4.1%増の250万トンと最大で、上海・浦東が14.7%増の219万664

トン、仁川が3.6%増の149万3210トン、台北・桃園が11.7%増の131万3899トン、シンガポール・チャンギが8.8%増の108万4000トン、成田が6.8%増の103万4001トン、バンコク・スワンナプームが5.4%増の83万8810トンだった。